

平成30年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金並びに
鋳物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通し

平成30年3月30日
(一社)日本アルミニウム合金協会

平成29年度の日本経済は、海外経済が回復する下で、輸出や生産の持ち直しが続くとともに、個人消費や民間設備投資が持ち直すなど民需が改善して経済の好循環が実現しつつあり、アベノミクスの推進により、雇用・所得環境の改善が続き、民需を中心として景気は緩やかに回復している。

このような経済環境の中で、当アルミニウム合金業界においては、好調な自動車等の輸出産業に支えられ、主力の自動車向け鋳物・ダイカスト需要が増加したことから、平成29年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要は1,685,300トン(対前年度比104.8%)が見込まれる。

このような状況の中で、平成30年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通しを次のとおり策定した。

- (1) 鋳物・ダイカスト向け二次合金地金需要については、国内新車販売が前年を下回ることが予想され、国内自動車生産が微減となるが、海外生産用部品の需要が堅調で、ほぼ横ばいが見込まれる。
- (2) 圧延向け二次合金地金・二次地金需要については、飲料用アルミニウム缶需要については横ばいが予想されるなど、ほぼ横ばいが見込まれる。
- (3) 鉄鋼・その他向け二次合金地金・二次地金需要については、国内粗鋼生産が前年度をやや上回る水準と予想され、ほぼ横ばいが見込まれる。

以上の状況から平成30年度のアルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通しを、ほぼ横ばいの1,690,400トン(対前年度比100.3%)と策定した。

また、平成30年度鋳物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通しは、286,700トン(対前年度比100.2%)が予想される。

平成 30 年 度

アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通し

平成 30 年 3 月 30 日

(一社)日本アルミニウム合金協会

(単位：トン)

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度実績		平成 30 年度	
		見 込 み	前年度比%	見 通 し	前年度比%
鑄 物	344,666	352,600	102.3	352,400	99.9
ダイカスト	944,890	1,010,400	106.9	1,012,700	100.2
圧 延	203,729	207,600	101.9	209,700	101.0
鉄鋼・その他	114,800	114,700	99.9	115,600	100.8
計	1,608,085	1,685,300	104.8	1,690,400	100.3

注 1) 輸入地金を含む。

注 2) 平成 14 年 1 月より、経済産業省統計の統廃合があり、鉄鋼・その他は当協会推定値となっている。

平成 30 年 度

鑄物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通し

(単位：トン)

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度実績		平成 30 年度	
		見 込 み	前年度比%	見 通 し	前年度比%
鑄 物	165,321	186,400	112.8	186,500	100.1
ダイカスト	96,401	99,700	103.4	100,200	100.5
計	261,722	286,100	109.3	286,700	100.2

注 1) 輸入地金を含む。